


タイトル 『インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム』の開発と臨床適用の研究				
分野	キーワード	① グループ指導	② 遊び単元	
医療・福祉				
研究者氏名: 清水 直治 (所属: 文学部教育学科)		[お問い合わせ先] TEL: 03-3945-7389 メールアドレス: shimz@toyo.jp		

【概要】

障害のある幼児を含むインクルージョン保育としてのグループ指導を実践する際に、「遊び単元」を中心とする多層水準指導を行うグループ指導カリキュラムを開発し、その臨床的妥当性を実証した。

【研究内容】

NPO 法人日本ポーターズ協会(会長 清水直治)は、障害のある乳幼児の早期からの発達相談と親・家族支援を行うプログラムである『新版ポーターズ早期教育プログラム』を 2005 年に開発し、その臨床的妥当性を実証した。

そしてまた 2005 年には、それまでの研究の成果を踏まえて、『インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム』を開発した。この集団活動の指導カリキュラムは、5つの発達領域(「身辺自立」、「認知」、「社会・情緒」、「言語・コミュニケーション」、「運動」)に、2歳以前を含む6歳までの発達水準の345項目の行動目標が発達の順次性・系列性に従って、さらに下位目標ごとに配置されている。

このグループ指導カリキュラムの使用に際しては、集団に属する全員の子どもにおける各発達領域の下位領域の行動目標についてアセスメントを実施し、それぞれの子どもにおける指導範囲を決定して、その指導範囲のなかから行動目標を選び出す。そして「遊び単元」を作成して、選出した行動目標を達成するためにグループ指導による多層水準指導を行う。こうして、指導範囲にある行動目標は、「遊び単元」中心の多層水準指導をとおしてあるいは日常生活の指導や自由遊びをとおして、その達成が確認できる。

『インクルージョン保育を展開するための幼児・グループ指導カリキュラム』は、現在も大阪、茨城、千葉、岐阜の保育所、児童デイサービス、児童発達支援センターなどにおいて、その臨床的妥当性の研究を継続して行っている。

【実用化・活用が見込まれる分野・対象業種等】

保育所、幼稚園、児童発達支援センター等の就学前教育及び福祉機関

【関連特許】(特許名称・出願番号等)